

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 58人

② 数学 59人

#### 5 留意事項

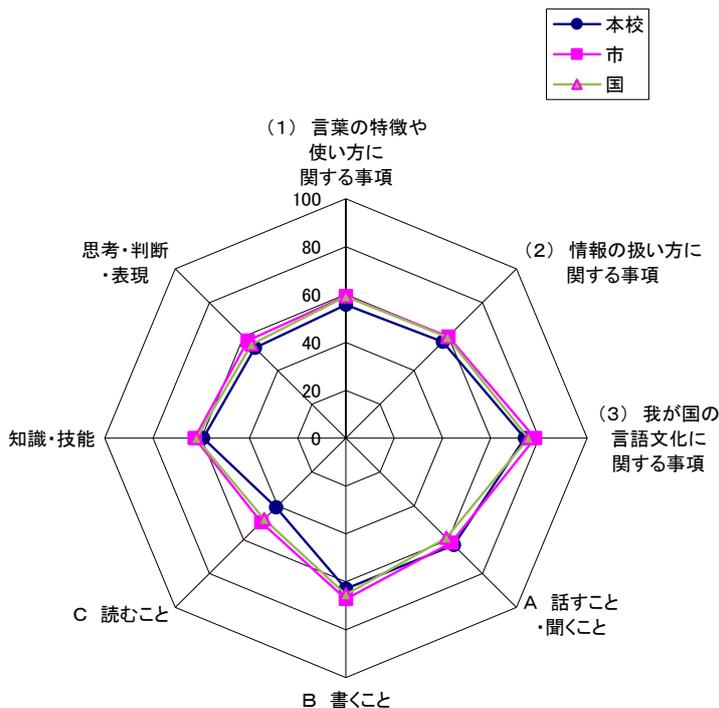
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.7	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	56.9	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.1	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	63.2	61.8	58.8
	B 書くこと	62.9	67.2	65.3
	C 読むこと	40.9	49.7	47.9
観点	知識・技能	59.2	62.7	62.0
	思考・判断・表現	53.3	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

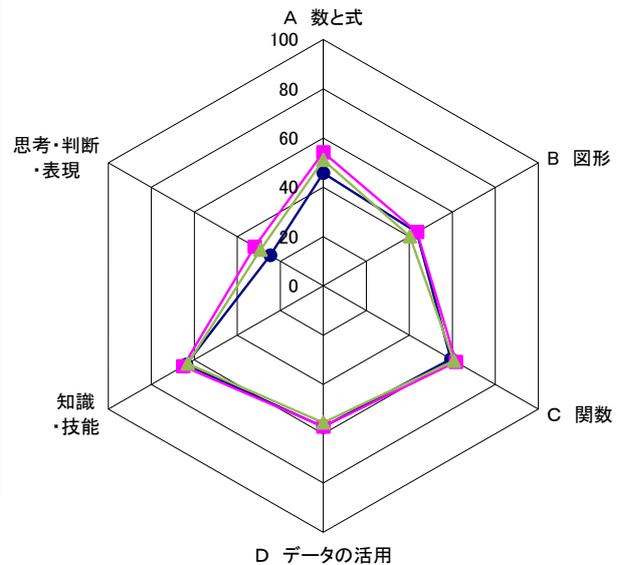
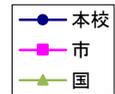
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○「みちたりた」という漢字をを問う設問では正答率は74.1%であり、県平均を5.9ポイント上回っている。 ●短歌に用いられている表現技法について説明したものと適切なものを選ぶ設問の正答率は44.8%であり、県平均を9.7ポイント下回っている。	・授業冒頭の漢字テストや語彙テストを引き続き継続していくことで、語彙力の向上を図る。 ・短歌の授業において、短歌に用いられる表現技法についての説明の時間をとり、理解の定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○本文中の情報と情報との関係を説明したものと適切なものを選ぶ設問の正答率は75.9%であり、県平均を0.6ポイント上回っている。 ●話し合いの中の発言について説明した設問の正答率は37.9%であり、県平均を6.6ポイント下回っている。意見や根拠を把握することについて課題が見られる。	・情報を吟味したり、取舍選択をしたりすることを学ぶ単元において、意見と根拠との関係について理解を深められるワークシートを工夫する。 ・学校教育全体を通して、クロームブックや学習アプリ等ICT機器を活用させ、情報の整理の仕方を理解できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●行書の特徴を踏まえた書き方について説明した設問の正答率は74.1%であり、県平均を1.3ポイント下回った。行書に対する知識の定着に課題が見られる。	・書写の授業において、楷書だけではなく、行書の書き方や特徴について理解を深めさせ、知識の定着を図る。
A 話すこと・聞くこと	○話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く設問の正答率は51.7%であり県平均を4.3ポイント上回っている。自身の考えを記述することに良好な状況が見られる。	・作文の授業等で自らの考えをじっくりと書かせる時間を引き続き確保していく。 ・クロームブックで生徒の作品を共有し、生徒同士で推敲し合う活動を授業に取り入れるなど、今後も授業展開の工夫に努める。
B 書くこと	●表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する設問の正答率は43.1%であり、県平均を8.7ポイント下回っている。 ●無解答率が8.6%であるため、記述に対しての抵抗感を減少させていく必要があると考えられる。	・作文指導の中でも「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることから、特に力を入れている。引き続き指導していくことで、「書く能力」を育成したい。 ・「自分の考えを明確にして書く」ことに課題が残る結果であったので、ミニレポートを提出させるなどの指導を引き続き強化していく。
C 読むこと	●本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する設問の正答率は34.5%であり、県の平均を8.5ポイント下回っている。	・説明文では、形式段落や意味段落への理解が深まるよう、グループワークを増やすなど、授業形態の工夫をしていく。授業の中で対話的な発問を繰り返していくことで、生徒一人一人が本文を読み深められるようにする。

# 宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	45.8	54.2	51.1
	B 図形	43.5	43.6	40.3
	C 関数	59.3	61.7	60.7
	D データの活用	57.2	57.1	55.5
観点	知識・技能	63.8	65.2	63.1
	思考・判断・表現	24.7	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる」問題では、正答率が96.6%で、県平均を6.7ポイント上回っている。 ●「連続する二つのが偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題では、正答率は23.7%で、県平均を14.0ポイント下回った。文字を用いた式を表すことに課題が見られる。	・知識・技能に関する小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎的基本的な計算を正確に解けるようにする。 ・数学的用語などの意味を定期的に確認する。 ・数の性質についての説明力を高めるために、習熟度学習を取り入れる。
B 図形	○「回転移動について理解しているかをみる」問題では、正答率が72.9%で、県平均を4.5ポイント上回っている。 ●「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題では、県平均を1.6ポイント上回ったものの、正答率は27.1%で、図形領域の中で最も低かった。証明するために必要な条件を判断することに課題が見られる。	・「相似な図形」「円」の単元において、図形の用語、定義や定理、証明の書き方など、1、2年生の内容も踏まえて指導する。 ・証明問題や図形と関数に関わる発展問題に取り組む機会を増やし、活用する力を身に付けさせる。
C 関数	○「一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる」問題では、正答率が69.5%で、県平均を4.5ポイント上回っている。 ●「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題では、正答率が8.5%で、県平均を8.2ポイント下回った。式やグラフを用いて説明することに課題が見られる。	・既習事項を復習する時間を設け、それぞれの関数の特徴を理解したうえで、問題に取り組ませる。 ・「2乗に比例する関数」の学習の際に、比例・反比例、1次関数の既習事項の復習を繰り返し指導する。また、表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせ、適切な表し方を判断して、表現する機会を増やし、定着を図る。 ・グラフの利用の学習では、求め方を説明させるなど、対話的な学びができるような場面を設ける。
D データの活用	○「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題では、正答率が59.3%で、県平均を11.1ポイント上回っている。 ●「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題では、正答率が16.9%で、県平均を10.4ポイント下回った。データの分布から読み取れる内容を説明することに課題が見られる。	・標本調査の単元において、資料の整理と活用、確率など1、2年生の復習に取り組ませる指導を行う。 ・データの特徴を知るために、累積度数や相対度数、最頻値、平均値、箱ひげ図などを活用することの意味を感じられるようにするため、日常生活の場面を多く取り入れるようにする。 ・資料を活用して問題解決していくような課題学習に取り組ませることで、正しい知識を用いて正しい判断ができるよう指導していく。

## 宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に関しては、肯定的割合が98.4%と高く、県の平均を4.8ポイント上回っている。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に関しては、肯定的割合が86.7%で、県の平均より1.1ポイント上回っている。さらに、「困りごとや不安がある時に、先生や大人にいつでも相談できますか」という質問でも、肯定的割合が78.3%と県の平均よりも7.8ポイント上回っている。このことから自己肯定感や自分を理解してくれている存在があると考えている生徒が多く、安心して学校生活を送る生徒の割合が高いと考えられる。今後そうした気持ちをもち続けられるよう、生徒のよさを認めていく声掛けをしていきたい。

○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に関しては、ほぼ毎日や週3回以上と答えている割合が、68.3%と県の平均を9.8ポイント上回っている。また、「1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどのくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という質問に関しては、とてもそう思う・そう思うの肯定割合が85パーセントと県の平均を3.3ポイント上回っている。このことから、PC・タブレットを使って分からないことをすぐに調べたり、楽しみながら学習を進めることに生かす生徒が多いことがわかる。今後も授業や学校生活の中でICT機器の活用を図りたい。

○「友達関係に満足していますか」という質問に関しては、肯定的割合が93.4%と県の平均91.0%よりも2.4ポイント上回っている。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」という質問でも、肯定的回答が96.6%と県の平均を5.7ポイント上回っている。このことから本校の生徒は、友達関係の満足感や幸福感が高い生徒が多いことが伺える。今後もひとりひとりの満足感や幸福感が維持されるようにこれまでの指導を生かし、継続していきたい。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」という質問に関しては、4時間以上が16.7%で県平均よりも3.6ポイント上回り、3時間以上4時間未満が10.0%で県平均と同程度であり、2時間以上3時間未満が33.3%で県の平均を12.9ポイント上回っている。また、1時間未満は13.3%で県平均を6.3ポイント下回っている。このことから、本校の生徒は長い時間ゲームに時間を費やしている生徒の割合が県の平均よりも高く、逆に短い時間でゲームをしている生徒の割合が低い結果となっており、このことから、ゲームの時間が長時間化していることが伺える。したがって、家庭との連携を図りながら、ゲーム時間を自己管理ができるよう指導していきたい。

## 宇都宮市立上河内中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業	主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実施に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は91.7%で、県の割合と比べて1.6ポイント高い。 「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は71.6%と県の割合と比べて8.3ポイント低い。国語の「書くこと」は県の平均を3.9ポイント下回った。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIDリルや振り返り活動の充実を図る。	・各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習(AIDリル等)を根気強く行う。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・家庭学習の習慣化及び質の向上を図る。